

# 平成21年度 羽曳野市まちづくり戦略会議（第3回）

まちづくり戦略会議は第5次羽曳野市総合基本計画に基づき、「次代の羽曳野づくり」を推進するため、開催するものです。今回第3回目として、羽曳野市の子どもたちをめぐる環境の変化を踏まえながら、子育て・教育について地域とのつながりを生かした新たな展開について意見交換を行いました。

## ◇テーマ

### 「地域のつながりの中で子育てと教育を育む笑顔のまちづくり」 ～子どもをめぐる環境変化と新たな対応～

◇第3回 羽曳野市まちづくり戦略会議◇

開催日時 平成21年7月6日(月) 14:00～16:00

開催場所 LIC はびきの 2階中会議室A

【参加有識者】

□ 金銅 晃〔羽曳野市教育委員長〕

□ 田中 孝〔羽曳野市PTA連絡協議会 会長〕

□ 塩谷幸子〔羽曳野市民生委員・児童委員、羽曳野市青少年指導員〕

□ 林 勲〔学校法人四天王寺学園 四天王寺学園小学校 校長〕

□ 鎌田 誠〔第一ゼミナール 企画戦略部統括責任者〕

アドバイザー：角野茂樹〔大阪府教育委員会事務局市町村教育室小中学校課課長〕



## ◇提言の内容◇

田中氏

●保護者側からの意見となりますが、今の子どもたちは前に出ることができない感じがしています。あいさつもできないのではなく、勇気がないのでしょくか。私は、子どもが言葉を発することができないのはなぜなのだろうと思ひながら、大人から近隣の子どもたちに声かけをして、一日の行動確認になればと思ひています。



塩谷氏

●最近、地域でのあいさつ運動がどの校区でも活発になりつつあります。地域によって異なりますが、民生委員・児童委員やこども会育成連絡協議会などの方々によって、朝のおはよう運動が進められ、「おはよう」の音がだんだん大きくなってきたように思ひます。また、登下校の見守りサポート隊や子育てサロンの活動など地域で顔の見える取り組みが定着してきたように思ひます。

林氏

●現代の子どもたちを見てると、命を大切にする心や他人を思いやる心が十分身につけていないのではないかと思ひます。子どもたちのモラルの低下や基礎学力、学習意欲、体力の低下を感じます。本学園では、人間の人格形成に大きく影響を及ぼす初等教育が重要だということで、今年4月に新しく小学校を設置しました。「たくましく、教養豊かな日本の心を育てる」を目標とし、建学の祖である聖徳太子の仏教精神に基づき、知育、徳育、体育のバランスのとれた教育と、古来から日本人が大切にすしてきた、誠実や礼儀礼節、感謝の心などを子どもたちに引き継ぐ教育を行いたいと思ひます。

鎌田氏

●私どもは、「社会で活躍できる人づくりを実現する民間教育機関」を目指しています。ここ数年入試で燃え尽きないようにするにはどうするか、という議論もあり、「意欲喚起を通じて成績向上を実現する」をキーワードに進めています。子どもたちのやる気を喚起して、そこから成績向上に結び付けていこうということです。今年「もっともっと自分が好きになる自分づくり」ということをテーマに、先生が訴えかけながら、子どもたちの可能性を引き出すことを考え、取り組んでいます。

金銅氏

●子どもたちをめぐる問題の背景は多岐にわたるもので、家庭、学校、教師など個々の努力では解決できないと思ひます。私は、人間教育の基礎は家庭だと考えています。会話を多くして、さらに色々な共同作業を行い、生活習慣を通じて家族の絆をきちんと作り上げて行くことが大切です。また、教師が熱意を持って指導し、少しでもできたら認めて褒める。このように、単純なことを繰り返して、徹底して学習すれば、それに連動して社会的なことも分かるようになると思ひます。私は、こうした子どもたちに対して親がすべきこと、学校がすべきことのメリハリが重要だと考えています。教育現場は、人づくりの場であり、子どもたちを甘やかすことなく、厳しく接することに心がけてもらいたいと思ひます。また、子どもたちは、物事を自分で判断することができるようになるまでは大人が正しく判断し、見守っていくことが必要です。私は、地域で子育て、教育を進めることは難しくないと思ひています。校長先生方には、「日頃より、地域に出て学校発信のまちづくりに力を入れてほしい。」と話しており、学校と地域との良い関係が築かれると、地域は立派な教育の場になると思ひます。



事務局

●子どもたちと地域のつながりについて、もう少しお話しただけではないでしょうか？

塩谷氏

●私の活動している羽曳野中学校区では、登下校の見守りだけではなく、地域の人が学校の授業に参加することで、子どもたちと積極的な関わりが持っています。また、子どもたちに注意することなども当たり前に行われています。それが地域力、教育力につながっていくと思ひます。



## 金銅氏

●昔のように他の子どもに対しても「しかる」環境が必要だと思っています。また、今は不況ということもあり、核家族で両親が共働きの家庭が多く、子どもと対話する時間がなかなか取れないようです。それをカバーしようと思ったら、地域の力をお願いする必要あると思います。

## 事務局

●PTAという立場から、地域と学校の取り組みについて、何かお考えはありますか？

## 田中氏

●共稼ぎで時間がなく、授業参観に行けない、子どもは一人で食事をとるといったような家庭も少なくありません。例えば、そのような状況を改善する方法として、学校の連絡帳を活用してはどうかと思います。連絡帳であれば、一日の行動が書け、子どもが親に行動や思いを伝えることもできます。「今日は何を勉強した」、「宿題の内容」、「朝何時に起きた」など子どもたちが自分で書けるようにするのです。時間がなかなか取れない親にも、子どもの行動がわかり、わずかな時間であっても会話ができるのではないかと思います。

## 事務局

●アドバイザーとしてご出席いただいている大阪府教育委員会事務局の角野小中学校課長に、大阪府での取り組みについてご説明いただき、羽曳野市ではその取り組みについてどのようなことが考えられるか、地域の中でどのように受けとめていくかなど、議論したいと思います。

## 角野氏

●今年2月に策定しました大阪府の「教育力向上プラン」では、今後5年間の具体的な取り組みとして、放課後に子どもたちが自ら学ぶ意識をつけるための学習機会として「おおさか・まなび舎事業」に取り組み、教育内容の充実をめざしていきます。また、この事業については、学習塾の方々にご支援いただいています。さらに、小・中学校の適正規模の確保を支援し、保育園、幼稚園、小・中学校などの校種間の連携強化、就学前教育の充実を図ることとしています。



## 事務局

●私学の立場から、大阪府の「教育力向上プラン」について、どのように思われますか？

## 林氏

●プランの中の「校種間の連携強化」ですが、子どもの成長発達に現在の6-3制では適合できないなどの問題があると思います。私どもでは6-3制ではなく、小学校1-4年生を前期、5年生-中学校3年生を後期として、4-5制をベースにした9年間一貫のカリキュラムを作っています。前期は読み書き、計算などの内容を繰り返し指導(反復学習)して習熟を図る時期、後期は論理的な思考力を育成し、自ら課題を見つけて解決する力を重視する時期だと考えます。地域とのつながりですが、私学では地域(校区)がないので、どのようにしてつながりを作っていくかが課題です。現在は、保護者の皆さまや本学園の大学生を学校支援ボランティアという形で受け入れています。



## 金銅氏

●羽曳野市でも小中一貫教育については、小・中学校の教師間交流や生徒同士のふれあいなどを実施しつつあります。

## 塩谷氏

●公立での小中一貫教育は、すべての学区で実施しないといけないと思います。そして、校区間の連携を密とした一貫教育にしてほしいと思います。また、幼稚園と小学校との交流も今後の課題だと思っています。

## 鎌田氏

●小・中学校の先生は、子どもたちの情報について、何を学校間で共有化するかという意識改革が大切だと思います。

## 事務局

●「おおさか・まなび舎事業」に学習塾の立場で参画されて、どのように思われましたか？

## 鎌田氏

●「おおさか・まなび舎事業」では、和泉市で関わってきました。その中で感じるのは教師の受け止め方に差があることです。学習塾の参画について抵抗を感じている方と、一緒に協力していこうと感じている方がおられると伺いました。どちらにしても、何かをしていかなければいけないという気持ちの表れだと思っています。この事業は地域貢献ということで、最終的には、地域の方々が運営できるようなレベルになれば、さらに根づいていくと思います。そういう意味でも地域は重要です。



## 塩谷氏

●私は羽曳野中学校区で活動していますが、これまでも支援が必要な子どもたちに対して、様々な取り組みを続けてきました。こういった地域の取り組みと「おおさか・まなび舎事業」との関係はどうなるのでしょうか。

## 鎌田氏

●この事業を元に地域で組み立てを変えても良いという作りだと思います。また、人材確保に係る支援をどれだけできるか、人がいないと成り立たないというのが現状でしょう。

## 角野氏

●「おおさか・まなび舎事業」は、週2回実施しており、教師OB、大学生など教育に関わる人が少額の謝礼があるものの基本的にはボランティアで参加されています。内容は、子どもたちの学習意欲が高まる、学力がつくようになる計画となっています。現在の主体は学校ですが、今後は地域の方にもさらに参加していただき、地域主体の取り組みとするなど、色々な工夫がされていくだろうと思います。

## 事務局

●「おおさか・まなび舎事業」は、地域が参画して受け止めていくということですが、地域としては可能だと思われますか？

## 田中氏

●PTAの考え方と学校の考え方が一致すれば、放課後授業などのこうした取り組みは可能だと思います。すでに羽曳野市でも放課後授業に取り組んでいる学校も増えていきますので、将来的には各学校でできることだと思います。また、PTAが積極的に協力していくことが、実施に向けての早いやり方だと思います。

## 塩谷氏

●生徒の安全面から考えても、各学校単位で実施すれば良いと思います。また、地域の中で子どもたちがどう育つのか、その中に地域力として地域の人が参加することが大切だと思います。

### 【おおさか・まなび舎事業】

小・中学校に、「放課後自習室」を開設し、教員と連携しながら学生や退職教員、塾講師等の地域の学習支援アドバイザーの指導のもと、児童生徒の学習習慣の定着と学力向上を図っていく事業。

※大阪府「教育力向上プラン」より